

2022/6/11

早稲田大学文学研究科

日本語日本文学コース

(Cultural Sciences Japanese Studies)

春季コース別相談会資料

ISSN 0389-8636

国文学研究

第百九十五集

『源氏』をよみかたに ——『源氏物語』の成立と展開——	三田村 雅子	1
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	及川 義智	13
小野小町「思ひつ」歌をめぐって ——『源氏物語』の成立と展開——	有馬 貴幸	25
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	福家 俊幸	39
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	小泉 咲	54
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	陣野 英	67
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	伊丹 則	81
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	児島 春奈	95
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	清水 智史	109
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	高橋 敏夫	121
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	山中 梓	157
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	兵藤 裕己	135
『源氏物語』の成立と展開 ——『源氏物語』の成立と展開——	木戸 雄一	139

早稲田大学国文学会

『国文学研究』第195集（令和3年10月）

【日本語日本文学コースがめざすもの】

文学の基本は言葉です。日本語日本文学コースでは、日本語とその歴史を探究するとともに、個々の文学作品の特色とその歴史的意義とを幅広く考察します。言葉とは何か、文学とは何かを考究することは、日本文化の本質を理解しようとすることにほかなりません。それはまた、日本という座標から世界を認識し、さらに世界の諸文化とのゆたかな共生をめざす新たな文化を創造する出発点ともなることでしょう。

本コースが目的とするのは、まさにこのような形での、日本語日本文学の研究を通した明日の文化創造への貢献です。日本の国内外において、日本語日本文学への高度の認識と、その社会への還元力・応用力を持った若い世代を育てることは、世界的な文化情報センターでもある早稲田大学の重要な務めであり、他大学にはない長い教育の伝統と豊富な実績を持った、日本語日本文学コースが果たすべき役割であると考えます。

そうした理念と使命感に立ち、日本語および日本文学全般について、豊かな見識と、専門的な知識を獲得するための技術とを身につけ、それぞれの研究分野・対象のエキスパートを養成することが、本コースの研究教育上の目的です。とりわけ今日では、外国からの留学生を含めて、国際社会など多様な場で活躍できる、高度な学術研究が可能な若手研究者を養成することが、大きな課題になっています。学際的な分野への対応能力（専門応用能力）を培い、修士課程・博士後期課程のそれぞれにおいて、優れた修士・課程博士を育成し、日本文化ひいては21世紀の世界の学術に資するよう取り組んでいます。

日本文学の古典領域においては、上代・中古・中世・近世各時代の研究に対応し、近代・現代領域では明治・大正・昭和・現代文学の研究に対応しています。また、日本語学においては古語から現代語にいたるまでの音韻・文字・語彙・文法・方言など、多岐にわたる日本語学分野研究に対応する体制をつくっています。研究方法においても、実証的な資料調査、本文研究から、最新のメディア・表象理論、文化研究、ポストコロニアリズム等にいたるさまざまな方法に対応できる教員がそろっています。

主として日本文学または日本語学の研究者、国際社会を含めて広く日本文学または日本語学の教育・普及に携わることのできる人材、日本文学または日本語学の高度の専門知識を必要とする編集者、ジャーナリスト、表現者を養成します。アジアを中心とする留学生も多く、それぞれの分野のゼミは、新たな見方・思考が交叉する活気溢れる場となっています。

みなさんにも、こうした日本語日本文学コースの一員として、日本文学・日本語学研究の高い志をもち、日本・世界の文化に貢献する役割を、ぜひ担っていただきたいと願っています。

【研究指導担当教員紹介】(2022 年度)

氏名	職名	現在の専門分野
----	----	---------

〈日本語学領域〉

上野 和昭	教授	日本語学
森山 卓郎	教授	日本語学
澤崎 文	准教授	日本語学

〈古典文学領域〉

高松 寿夫	教授	日本古代文学
陣野 英則	教授	日本古典文学、平安時代文学、物語文学
兼築 信行	教授	日本古典文学 和歌 文献学
和田 琢磨	教授	日本中世文学、軍記物語、太平記、絵巻等
池澤 一郎	教授	日本近世文学
河野 貴美子	教授	和漢比較文学

〈近現代文学領域〉

宗像 和重	教授	明治・大正期を中心とする日本近代文学
十重田 裕一	教授	大正・昭和期を中心とする日本近代文学
鳥羽 耕史	教授	日本近代文学、戦後文化運動
坪井 秀人	教授	日本近代・現代文学研究、文化史研究

【大学院日本語日本文学コース配当科目】(2022 年度)

* 早稲田大学 Web シラバス (<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>) でご確認ください。検索画面の「学部」の選択項目のなかから「文研」を選び、次いで、「科目管理主体」の選択項目のなかから「日本語日本文学コース」を選び、検索を実行すると、日本語日本文学コースが管理主体となっている全科目の情報が表示されます。上代から近現代文学、日本語学の各分野をカバーして、専任教員および各分野の専門家が担当する非常勤講師による研究指導・演習・講義が用意されています。

【在籍学生数】2022 年度、() 内は 2021 年度

(領域)	(修士課程)	(博士後期課程)	
日本語領域	1 (1) 人	11 (12) 人	
古典文学領域	11 (12) 人	20 (19) 人	
近現代文学領域	24 (22) 人	20 (17) 人	
合計	36 (35) 人	51 (48) 人	83 (105) 人

*2022 年度の留学生の在籍学生は、修士課程 7 人、博士後期課程 13 人、合計 20 人

【取得資格】

教育職員免許状（専修免許状）

種類： 中学校教諭「国語」専修免許状

高等学校教諭「国語」専修免許状

※中学校教諭 1 種免許状、高等学校教諭 1 種免許状を取得していることなど、取得条件を満たす必要があります。

【留学制度】（博士後期課程）

- ・ コロンビア大学との DDP (Double Degree Program)

【修士論文・博士学位請求論文題目】

*印は留学生

〈修士論文〉

2020（令和2）年度

- 高松寿夫
 - 上代文学と女性
 - *山上憶良の漢籍受容
 - 万葉集における七夕伝説
- 陣野英則
 - 平安物語文学における表現と場面形成の方法
 - 平安期物語表現攷
 - 平安時代文学における髪
 - F・V・ディキンズと日本文学
- 兼築信行
 - *『文集百首』にみる隠逸思想
- 和田琢磨
 - 『義経記』と幸若舞曲を中心とした判官物の研究
 - 『今昔物語集』研究
- 河野貴美子
 - *泰山府君祭の生成と儒者
- 高橋敏夫
 - 宮沢賢治の異界論
 - *吉川英治「鳴門秘帖」論
 - 『漾虚集』の研究
 - 村上春樹初期三部作論
 - 田山花袋「蒲団」の研究
- 宗像和重
 - *森鷗外における明治四〇年代
 - 立原道造詩学の研究
 - *谷崎潤一郎「刺青」論
- 鳥羽耕史
 - 日本近代文学における〈フィリピン〉の表象
 - *藤枝静男論
- 上野和昭

＊『横浜方言演習』の研究

三重県旧南勢町における方言アクセントの研究

○森山卓郎

明治期文語体韻文におけるテンス・アスペクトの助動詞の使い分けについて

＊日本語の再帰代名詞について

日本語における引用表現の拡張についての研究

日本語の韻文をめぐって

2019（令和元）年度

○高松寿夫

『萬葉集』遣新羅使人歌群の研究

万葉景物論

○兼築信行

『拾遺抄』『拾遺和歌集』と菅原道真

○池澤一郎

近世後期戯作文学における諸芸能の利用

十返舎一九の戯作研究

○高橋敏夫

遠藤周作「青い小さな葡萄」・『海と毒薬』論

中島敦「古譚」の研究

○宗像和重

太宰治研究

石原吉郎論

○榊原理智

原民喜論

谷崎潤一郎論

○鳥羽耕史

安部公房論

三島由紀夫『豊饒の海』論

○森山卓郎

岡本かの子の短歌の文体論的研究

授受表現について

〈博士学位請求論文〉

2020（令和2）年度

- ・私家集とその編纂意識の研究
- ・紀貫之と屏風歌の展開
- ・院政期仁和寺文化圏における和歌活動の研究
- ・島崎藤村研究
- ・近世遊里文藝の研究

2019（令和元）年度

- ・坪内逍遙における小説論及び作品研究
- ・奈良末・平安初期の漢詩の研究－勅撰三漢詩集を中心として－
- ・歌物語史から見た伊勢物語

2018（平成30）年度

- ・流布本『保元物語』『平治物語』の成立と物語の変遷－室町・戦国期の文学と社会の連動を背景に－
- ・明治俳句言説史の研究－子規・虚子・碧梧桐を中心に－
- ・＊李良枝研究－民族的アイデンティティを超えて－
- ・漱石初期小説の研究
- ・大西巨人『神聖喜劇』研究－戦争表象・戦後空間・新資料－
- ・『源氏物語』と歌ことば表現－連想と変容－
- ・現代日本語におけるカタカナ使用の実態とその背景
- ・松本清張の一九五〇年代－交響するメディアとジャンルの更新－
- ・＊奈良時代前期の日本文学における漢籍受容－大伴旅人とその周辺－

【修了後の進路】

修士課程

博士後期課程進学、中学高校教員、教育関係、ジャーナリズム、一般企業など

博士後期課程

大学短期大学教員、中学高校教員など

【入学試験】

- * 日本語日本文学コースが実施している入学試験
- * 出願資格などについては、事務所にご確認ください。

〈修士課程〉

- ・ 一般入学試験
- ・ 推薦入学試験（学部生推薦入学制度）
- ・ 論文特別選抜試験

出願資格

早稲田大学文化構想学部・文学部の「卒業研究・ゼミ論文・卒業論文」、もしくは早稲田大学（学部）に提出したこれに類する論文に限る。

- ・ 一般科目等履修生入学試験

〈博士後期課程〉

- ・ 一般入学試験

【早稲田大学国文学会】

- ・ 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース、教育学研究科国語教育専攻／教科教育学専攻など、所属を横断した早稲田大学国語国文学研究者、在学生、出身者などによる研究会。
- ・ 大会の開催、機関誌『国文学研究』の発行など、活発な活動を展開し、学術成果の報告と会員の交流の場となっています。

【問い合わせ・相談窓口】

ホームページ「日語日文」

<http://www.waseda.jp/bun-nihon-go-bun/>

日本語日本文学コース室

39号館5階2519研究室

平日午後開室 講師・T Aが在室

メール：wnichibun@gmail.com